

敬 愛

甲斐市立敷島中学校
学校だより 第13号
平成30年 3月 6日(火)
発行 長田 靖

春は もうすぐ そこまで...



今日は二十四節気のひとつ啓蟄^{けいちつ}、「冬ごもりをしていた虫たちが地上に出て活動始める時分」の意味です。最近は一雨ごとに気温が上がり、日の長くなり方も急で、確実に春に近づいていることを実感します。

さて、明日3月7日(火)は公立高校後期募集の検査日です。この検査に、本校からは18校に110人の3年生が挑みます(時間割は右下)。

国語だけが55分(作文含む)で、残り4教科は45分間のテストです。また、テストは午前中に3教科・午後2教科に分かれていて、中学校の時間割とはちょっと違います。

本校では、1月下旬に1年生にインフルエンザが広がり、1クラスが学級閉鎖となりました。しかし、その後は世間で騒がれているほどには感染の広がりを心配しなくて良い状況で来られました。

保健室の西川先生や保健委員会の呼びかけ、手洗い・うがいの励行、規則正しい食事や睡眠を始め

とする家庭での生活があったからこそ、ですね。加えて、何より「今、風邪なんか引いてる場合じゃないっ!」という受験生の強い気持ちが3年生を支えてきたのだと思います。

平成30年度公立高校後期募集検査・時間割

平成30年3月7日(水)

第1時限	国語	9時30分～10時25分
第2時限	社会	10時40分～11時25分
第3時限	数学	11時40分～12時25分

第4時限	英語	13時30分～14時15分
第5時限	理科	14時30分～15時15分

平成30年3月8日(木)

・面接(定時制課程)

先週の木曜日(1日)、後期入試に向けた決起集会「全員 進路実現」が行われました。進路指導主事の林先生からは、激励を含めて後期入試に臨む心構えについてのお話がありました。私は「自分を支えられるのは自分だけ」、「受験生活は人生の糧」などの話をしました。また「**正**」の字を使い、「一つ止まって」落ち着いて問題に向き合ってほしいと話しました。

会場となった体育館には、リラックスした中にほどよい緊張感が漂い、3年生の表情も引き締まって見えました。

さあ、あとひとがんばり、もう少しです。自分を信じて、落ち着いて、今日は明日のためにいい準備をして過ごしてください。ここまでがんばってきた自分を褒めましょう。明日はすがすがしい気持ちで問題に向き合い、納得のいく、いい答案を作ってください。応援しています!

なお、明日は1・2年生も学校で到達度検査を実施します。3年生のがんばりに思いを馳せながら、来年あるいは2年後の自分の姿を想像して、問題に取り組みましょう。



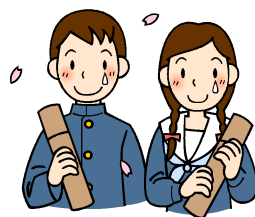
3 / 3 (土)「卒業式と1年の終わりに向けての美化大作戦(☆。☆)」
ご協力、ありがとうございました！



今年度、PTA活動の新しい事業として実施してきた愛校作業も3回目、今回は1年生の保護者のみなさんが担当してくださいました。前回まで(6/24, 9/2)は除草など屋外の作業が中心でしたが、3日(土)はプランターの準備、正面玄関や校舎1階の掃除を行いました。

今回の参加者は52名、それぞれに都合（時間）をやりくりしてのご参加に感謝です。普段の掃除ではなかなか手が入れないところを、きれいにさせていただきました。

高校の卒業式に参加して



3月1日（木）、県内の公立高校で一斉に卒業式が行われました。

今年高校を卒業したのは、平成24年4月に中学校生活をスタートさせた人たち（数中で言えば、一回り前の青ジャージ）です。

多くの高校から卒業式のご案内を頂戴しましたが、本校では甲斐市の公立高校である農林高校と、卒業生が多く在籍している甲府城西高校の式に参列しました。

農林高校の卒業生は、5つの学科を合わせて146名です。3カ年皆勤は21名と聞いて驚きました。高校生の皆勤率は7%くらいと言われますから、この人数の多さはすばらしいものです。

式は厳かに進み、終了までの2時間、卒業生はもとより在校生もとても集中していました。卒業証書授与の場面では、担任の先生の呼名に対して力強く「はいっ!」と返事をする様子に、きっと充実した3年間の高校生活を送れたのだろう…、そんなふうに感じました。式が終わり、退場の場面では、一人一人が先生方と握手をして会場を後に行きました。笑顔の生徒、涙する生徒、先生と抱き合う生徒などの姿があり、ほほえましかったです。

農林高校は、本校の卒業生がお世話になる高校のひとつです。心豊かでたくましい生徒が育っていると、卒業式に参列して感じ取ることができ、安心して卒業生を送り出せる学校であることを確信しました。

~~~~~

雪の峯しづかに春ののぼりゆく

山国甲斐は四囲を峻厳な山々に囲まれ、四季の移り変わりは山の表情に表れる。山は最も遅く季節を受け入れ、最も早く季節の顔を脱ぐところである。ことに春はゆっくりとやって来る。峰々に雪をいただき、まだまだ春の到来は見えてこない季節であるが、その春が山すそから静かに始まっている。春は山すそから次第に領域を広げながら急がず山頂へと、あたかも水面が上がっていくかのように確かな歩みを感じさせながら、やがて山全体を覆っていく。季節の権力争いは「しづかに」進行していく。そして、いつしか次の季節へその座を明け渡す…。 ＜ある解説より＞

飯田龍太先生の句です。本校の校歌に、「朝夕仰ぐ富士が嶺の…」の一節があります。自然に眺める富士山や周囲の山々ですが、生徒のみなさんがこれらの山の様子から季節の移り変わりを気にかけることは、ほとんどないでしょうね。

毎年、高校入試や卒業式、修了式など学校の1年をしめくくる大きな行事に取り組んでいる間に、「去る」のが3月。今まで以上に、1日1日を大切にしていきたいと思います。